

はちのへ演劇祭の10年

文/田中稔(第十回はちのへ演劇祭副実行委員長)

2012年から開催したはちのへ演劇祭も今年で10年目となり、これまでを振り返り、効果や今後について考えてみた。

第一回2012年10～11月の3週、1週目 社会人劇団公演、2週目高校演劇部公演、3週目公募キャストで平霞健悦さんの作、演出による「銀河鉄道の夜」を公演。

第二回2014年3月。市内外の6劇団による短編演劇、この劇団の中には第一回に公募参加し、結成し現在も活動している劇団が2団体。

第三回2015年3月。東京で活動している劇団柿食う客主宰の中屋敷法仁さんによる作、演出で「八戸の街がうごきだす」を公募キャストで公演。

第四回2016年3月。八戸の演劇を長年牽引してきた小寺隆昭さんの「俗物礼賛」から9作品とダンス1作品を公演。

第五回2016年11月。南部町出身で東京で活動している仲坪由紀子さんの作、演出による「半朗読劇てくてく」を公募キャストとプロの役者4名により公演。

第六回2018年3月。アングラ演劇ポスター展。アート&コミュニティの指導による舞台スタッフ講習会。ポスターを借景にして市内外6団体と一人芝居3作品、ダンス1作品を公演。

第七回2019年3月。1996年に八戸の劇団の作品「水底の柩」を当時高校生で参加し、現在東京で活動している鈴木利典さんによる脚色、演出。キャストは公募の他、プロの役者2名が加わり公演。

第八回2019年12月、年号が令和に変



第一回はちのへ演劇祭「銀河鉄道の夜」より

わった年であることから、演劇祭のテーマを〇(レイ、ゼロ等)とし劇中に関連付け市内外の6劇団にて公演。

第九回2021年1月新型コロナウイルスの影響により中止。

これまで公募による新たな役者の発掘や、プロの役者との共演、演出、公演以外では舞台づくり講習会、ポスター展等々を開催し、そのたびごとに役者や観客に刺激を与え、興味を持ってもらえたのであればこの十年間で八戸の演劇活性化に少しは寄与できたのではないだろうか。

だが、定着とまでは至らない。公募により新たな役者を育てても、就職や進学により八戸を離れてしまう。また、オンラインで観劇できる現在、わざわざ劇場まで足を運び、一定の時間椅子に座り共有しなければならない空間を若者は選択するだろうか。現実、演劇祭の観客に若者は少ない。初見で面白くないとなれば苦痛でしかないものを再度観に来ない。だからこそ生でしか体験できない迫力や違和感、外連味を感じる演出や演技で、芝居小屋という非日常空間へ全世代を誘うための導線の引き方を工夫していかなければならないと感じている今日この頃である。

そして、10年目のはちのへ演劇祭は12月開催予定。詳細は次号にて、乞うご期待。

●筆者近況

先日、Tシャツを3着作った。背中には「ほんになげつったもんな(On the way to the next)」「きみ食ねえが。え、俺?(きみ事君)」「わんつかもじよれじゃ(もじよれ事ボージョ)」の文字。くだらないと思いつつも着てみる。ほくそ笑む自分が気持ち悪い。

第51回みちのくおどり
-華舞台-

【日時】11月7日(日)10:00開演
【場所】八戸市公会堂 【料金】
2,000円 【問合せ】八戸市文化協会 ☎0178-43-1149

ダンスバレエリセ
豊島舞踊研究所
第65回発表会

コロナ下で準備を進めている65回目の発表会。「白鳥の湖」で開幕します。小さい子の群舞は「オープン・ザ・フロア」。中高生は「写真展会場」。八戸市公会堂でお待ちしています。【日時】11月14日(日)13:00開演【場所】八戸市公会堂【料金】無料【問合せ】豊島 ☎0178-22-1409



演劇空間 スペースベン

～演劇好きのための、演劇の場～

※特別番組以外 金曜日は19時30分～、料金は一般前売500円
大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増し)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、
ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい

八戸市柏崎1-11-8 TEL:080-6025-0990 FAX:050-3588-8350
E-MAIL:owner@spaceben.com URL:https://spaceben.com/

FANS FRIDAY AMUSEMENT NEGATIVE SHOP
FANS予定▶第1448～1551回

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
お休みします

WHAT'S
"FANS"?

多目的スペース「SpaceBEN」にて、毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。

— 一般前売500円 / 大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増) —